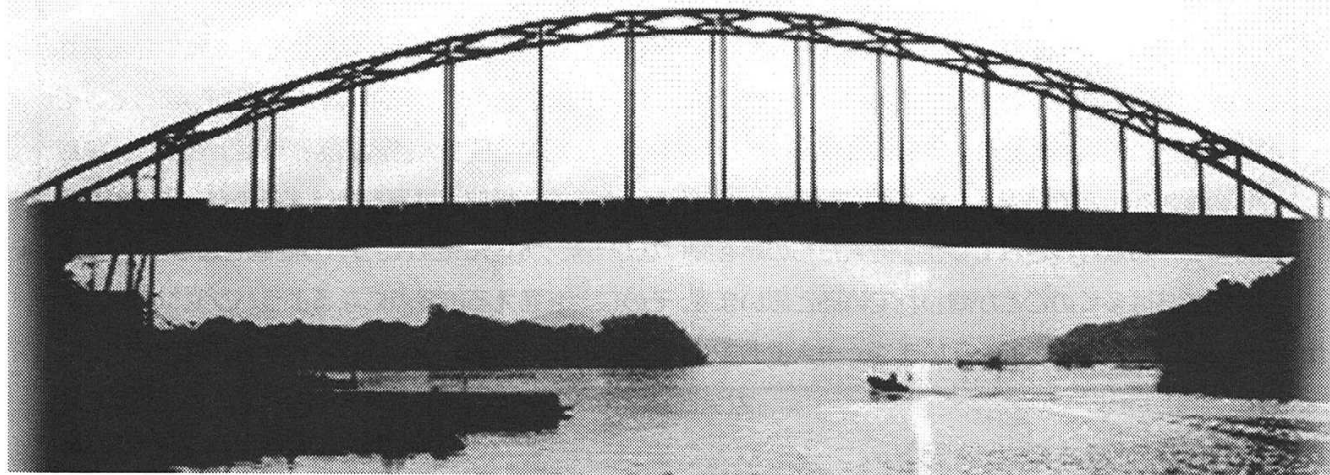


山陽教区ハンセン病問題学習会

——ハンセン病の歴史と大谷派の願い——



邑久長島大橋

1988(昭和63)年5月9日開通。それまでは、本土との最短距離22メートルを隔てていた海を、渡し舟で行き来していました。橋の完成が島内にもたらしたものは大きく、「人間回復の橋」と呼ばれています。

架橋当時「ハンセン病は隔離が必要でなくなった証」といわれました。(邑久光明園資料より抜粋)

期 日 / 2018年2月22日(木) 14:00~17:00

会 場 / 教区司教会館(広島)(広島別院明信院)

広島県広島市中区宝町4番16号

日 程 / 13:30~ 受付

14:00~ 開会(真宗宗歌・挨拶)

14:10~ 講義①「ハンセン病の歴史」

田村 朋久 氏(長島愛生園歴史館学芸員)

15:00~ 講義②「大谷派の活動と願い」

中杉 隆法 氏(神戸組西林寺)

16:00~ パネルディスカッション

17:00 閉会(挨拶・恩徳讃)

参加費 / 無 料 ※終了後、懇親会がございます。(希望者のみ、別途参加費要)

教師陞補対象
研修会です!

主催 / 山陽教区教化委員会社会問題部門

お問い合わせは山陽教務所まで TEL: 079 - 292 - 3690

【趣旨文】

山陽教区内の瀬戸内海に浮かぶ長島(岡山県瀬戸市)には2つの国立療養所(愛生園・光明園)があります。長島と対岸の虫明とを隔てる海の長さは約30メートル。そこに呂久長島大橋(人間回復の橋)が架かっています。長島は今では行き来が自由にできる場所ですが、1988年に橋が完成するまでは船でしか行き来のできない不便な場所でした。なぜなら「らい予防法」を根拠に国家主体ではありましたが官・民両側からハンセン病の撲滅を掲げ、ハンセン病を患った人を人里離れた離島や山奥に強制隔離してきた歴史があるからです。真宗大谷派もこの流れにのり、1931年に大谷派光明会を作り、強制隔離を後押ししました。その後、宗派はそのあやまちを反省し1996年「ハンセン病に関わる真宗大谷派の謝罪声明」を出し、隔離からの解放を歩んでいます。今、改めて隔離とはなんだったのか、解放とは何を意味するのか、そして社会の大多数から取り残されてしまった人たちの声を聞けなかったということがどういう問題を起こしたのか、今の私たちは多くのことが問われていると思います。そのことを考える出発点になるようハンセン病を一から学ぶべく、学習会をおこないます。一人でも多くのご参加をお待ちしております。

社会問題部門ハンセン病療養所交流部会 部会長 上岸佑介

【広島別院までの地図】

アクセス

- ・広島駅南口よりタクシーで約10分
- ・広島バス 50号 広島駅～アルパーク 宝町北下車
- ・広島電鉄バス 13号 広島駅～市役所方面 田中町下車

